

南阿蘇村を中心とした観光ネットワークに関する研究

A study of network of sightseeing around Minamiaso village

熊本大学大学院自然科学研究科社会環境工学専攻 105d8858 力徳 祥子

1. 序論

近年、観光は 21 世紀のリーディング産業とされ、日本全国で観光を軸とした地域振興が脚光を浴びている。しかし、自動車を主な交通手段とする、周遊観光が中心となっている観光地では、観光地間の結びつきである「観光ネットワーク」の推定は難しい状況にある。そこで、本研究では、観光地整備の変遷と観光行動から、「観光ネットワーク」について考察することを目的とする。

2. 南阿蘇村の観光地化の変遷

南阿蘇村の観光資源整備は、交通インフラの沿線で進展している。そこで、周辺の交通インフラ整備の変遷を整理することで時代を 4 期に分類し、さらに、観光行動に着目し分類した村内の観光資源の成立年代を、時代区分と比較し、分析を行った。その結果、第 I 期から第 III 期までは、行楽型の観光資源を中心に阿蘇山上への登山道路沿いであったが、第 IV 期では、温泉を中心に新たなバイパス沿いへと、観光地整備が移行しており、時代の進行とともに、観光客の来訪目的が多様化し、観光ネットワークが広域に変化していることが示された。

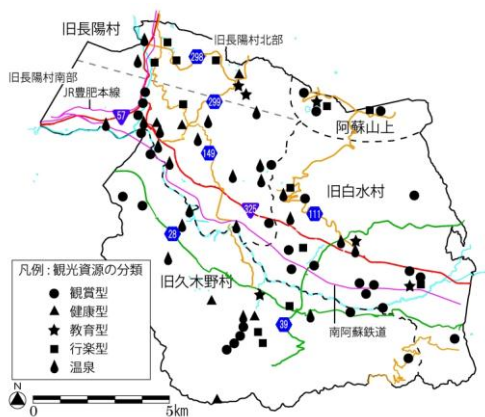


図 1 第 IV 期観光地整備状況

3. アンケート調査

観光行動の特性の分析を行うにあたり、村内の主要な観光施設 5 地点で、自動車交通を主要な観光手段としている観光客に対し、観光動向のアンケート調査を実施した。899 の有効サンプルを収集することが出来た。

4. 観光行動特性

4.1 観光行動の基礎的集計

本節では、アンケート調査結果の単純集計により、大まかな観光行動特性を把握した。

4.2 南阿蘇村外の流動パターン

本節では、広域な観光ネットワークに注目し、南阿蘇村外における来訪者の行動を分析した。図 2 に南阿蘇村外における来訪者の行動を示す。これより、九州全域および熊本県内の異なる範囲について、各観光地と南阿蘇村は性質の異なる地域間での結合を示し、南阿蘇村を来訪する観光客によって形成された地域は階層的なセクター状の空間構造をとることがわかった。

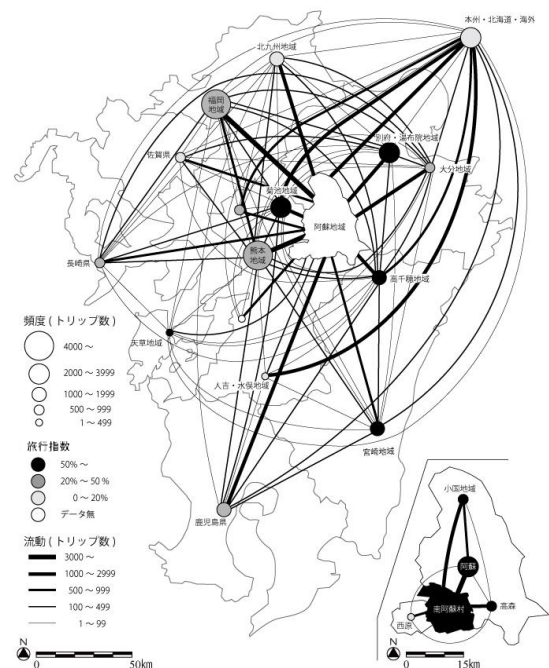


図 1 仮説の概略図

4.3 南阿蘇村内トリップ数別行動パターン

南阿蘇村内のトリップ数別の行動について分析を行った結果、トリップ数の増加に伴い、接続点は変化し、行動は広域かつ多様化することがわかった。

4.4 南阿蘇村内トリップ数別来訪順序

トリップ数別の来訪順序について分析を行った結果、トリップ数の増加に伴い、村内来訪の主要な目的に加え、第 2・第 3 の目的が明らかとなった。

5. 結論

観光ネットワークは、交通インフラと観光資源整備による観光地整備と、観光客の観光目的により形成され、トリップ数の増加に伴い結節点は変化し、広域かつ多様化することがわかった。今後は、観光客の嗜好と観光ネットワークの関係性について深く分析することが本研究の課題である。